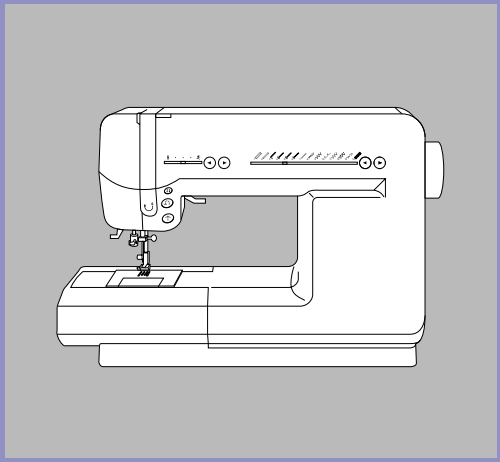
rumina

使用の手びき

型式：3000シリーズ



SINGER

このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」をご使用の前に必ずお読みください。
「使用の手びき」は手元に保管し、末長くご活用ください。

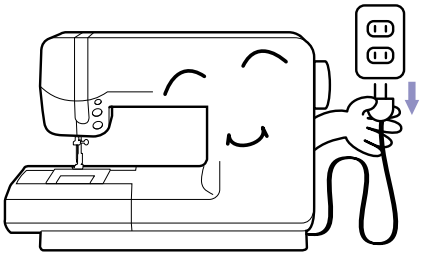
このたびは、シンガーミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。
このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用コンピュータミシンです。
このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。
「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY.

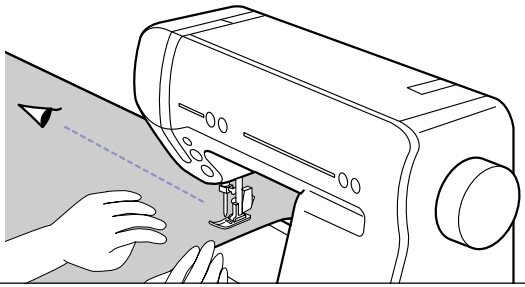
⚠ 警告　感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。
   - ミシンのそばを離れるとき。
   - ミシンを使用したあと。
   - ミシン使用中に停電したとき。



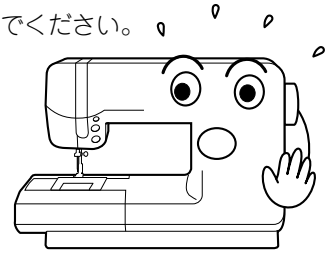
⚠ 注意　感電、火災、けがなどの原因となります。

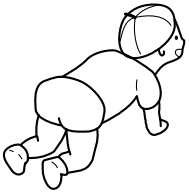
1. お客さま自身での分解、改造はしないでください。
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。



シンガーは、皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザインまたは、付属品を変更することがあります。

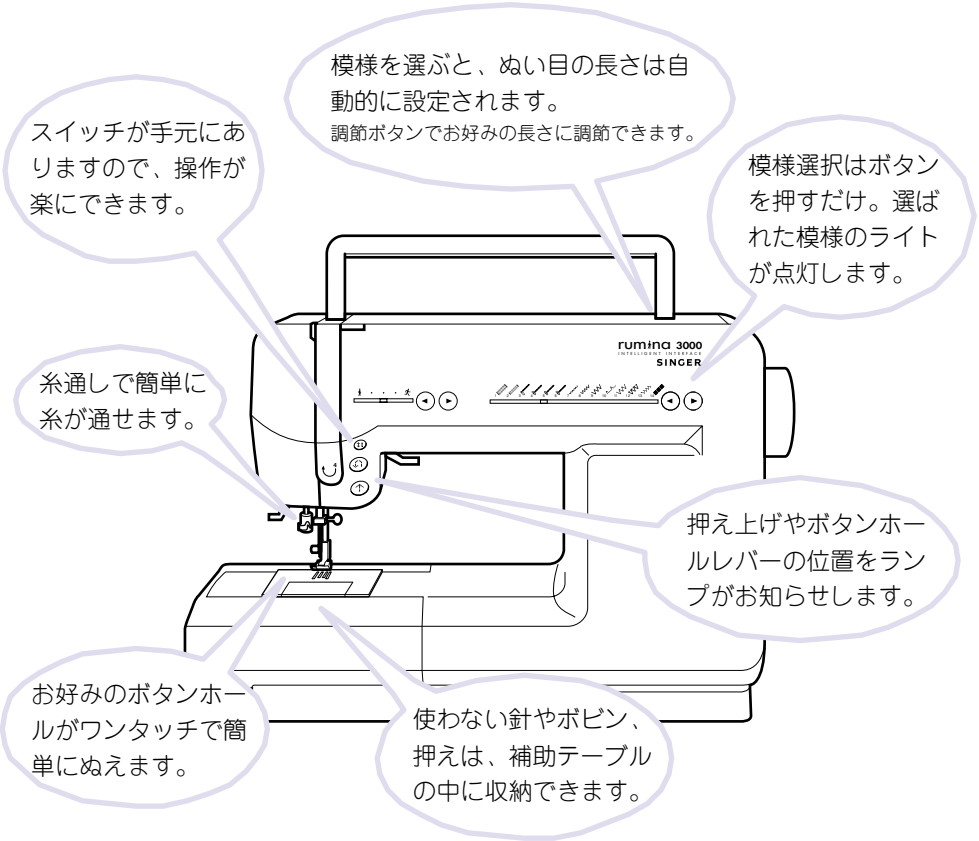
3. 曲がった針はご使用にならないでください。
4. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
5. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。





6. 以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。
   - 針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
   - ランプを交換するとき。（ランプが冷えてから行ってください。）
   - 「使用の手びき」に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
   - 原則として上糸、下糸を交換するとき。
7. ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、ご購入店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡の上、点検、修理、調整をお受けください。
   - 正常に作動しないとき。
   - 落下などにより破損したとき。
   - 水に濡れたとき。
   - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
   - 異常な臭い、音がするとき。
8. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。

このミシンの特長

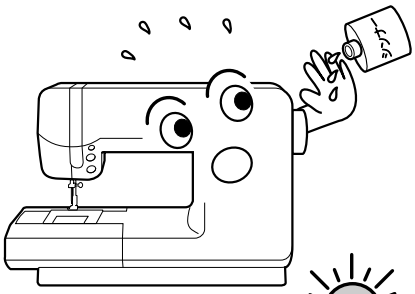


仕様

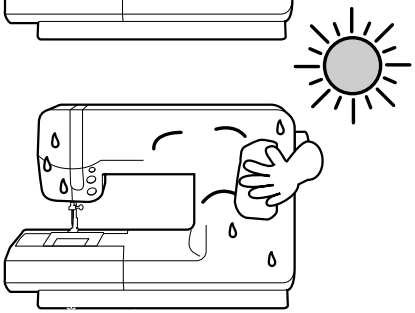
定格電圧	100 V
消費電力	75 W
周波数	50 Hz/60 Hz
ランプ定格	8V/2.4 W
寸法	幅：420 mm × 高さ：276 mm × 奥行き：164 mm
重量	9.1 kg

ミシンの取り扱い

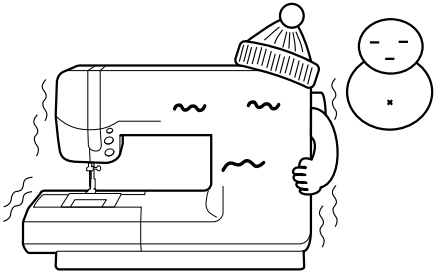
● シンナーやベンジンなどでふかないでください。
汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。



● 直射日光に当てたり、高温多湿のところには置かないでください。

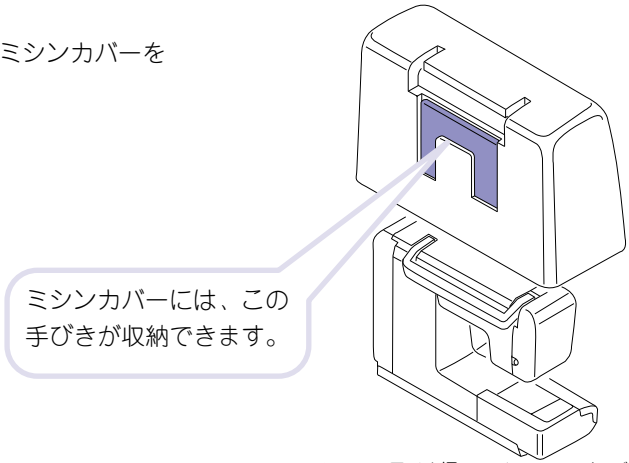


● 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
時間がたてば正常に作動するようになります。
保管は、なるべく寒いところをさけてください。



ミシンカバー

ミシンを使わないときは、ミシンカバーをかぶせておきましょう。

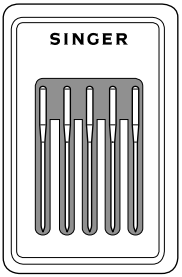


目次

安全にご使用いただくために ..... 表紙裏
このミシンの特長 2
仕様 2
ミシンの取り扱い 3
ミシンカバー 3
付属品・補助テーブル 5
各部のなまえ 6
電源を入れましょう 8
手元操作ボタン 8
　スタート・ストップ　ボタン（お知らせランプ） 8
　スピード調節ボタン 8
　針上下ボタン 8
　返しぬいボタン 8
模様の選び方 9
　模様選択ボタン 9
　模様選択ライト 9
ぬい目の長さの調節（手動にするには…） 9
　ぬい目の長さ調節ボタン 9
下糸の準備 10
　ボビンの取り出し方 10
　下糸の巻き方 10
　ボビンのセット 11
上糸の準備 12
　上糸のかけ方 12
　糸通しの使い方 13
　下糸の引き上げ方 13
ぬってみましょう 14
　ぬい始め〜ぬい終わり 14
　返しぬい 15
　ぬい方向の変え方 15
　厚地のぬい始め 15
　段ぬい 15
糸調子のとり方 16
糸と針の選び方 17
押えの取りかえ方 18
針の取りかえ方 18
いろいろなぬい方 19
直線ぬい 20
ジグザグぬい 21
フリーアームぬい 21
ふちかがりぬい（たち目かがり） 22
まつりぬい（ブラインドステッチ） 23
ボタンホールぬい 24
ファスナー付け（つき合わせ・脇あき） 26
　つき合わせ 26
　脇あき 27
つくろいぬい（点線ジグザグぬい） 28
伸縮強化ぬい 28
パッチワーク 29
アップリケ 29
ギャザー寄せ 30
ピンタック 30
PRO KITのご案内（別売り） 31
上送り押えのご案内（別売り） 32
　上送り押えの取り付け方 32
コントローラーのご案内（別売り） 33
直線用押えと針板のご案内（別売り） ... 33
ミシンのお手入れ 34
　ランプの交換 34
　かまと送り歯の掃除 35
　　＊ ボビンケースの掃除 35
　　＊ 外がまと送り歯の掃除 35
こんなときには 36
お問い合わせまたはご相談先
（純正部品の購入方法） 38
修理サービス要領 39

付属品・補助テーブル

付属品は補助テーブルの中に入っています。

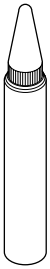


針ケース（5本入り）
11番、14番、16番
ニット針（黄色）11番、14番

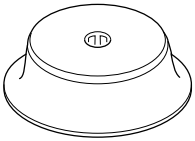
ドライバー

針板用
ドライバー

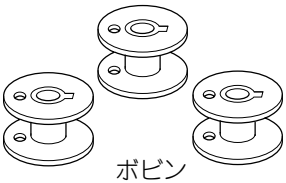
シームリッパー



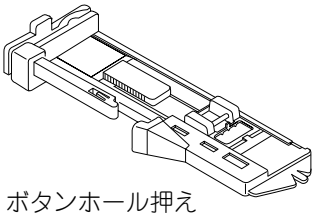
油差し



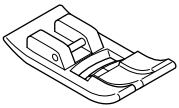
糸巻き押え



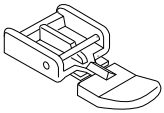
ボビン



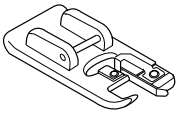
ボタンホール押え



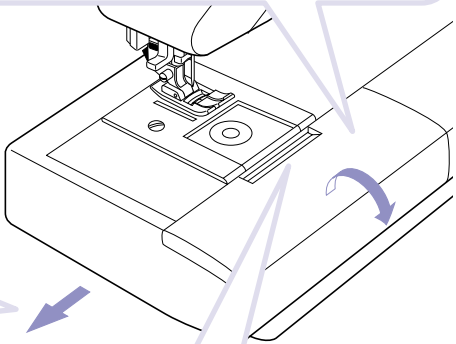
ジグザグ押え
この押えはミシンについています。



ファスナー押え



ふちかがり押え

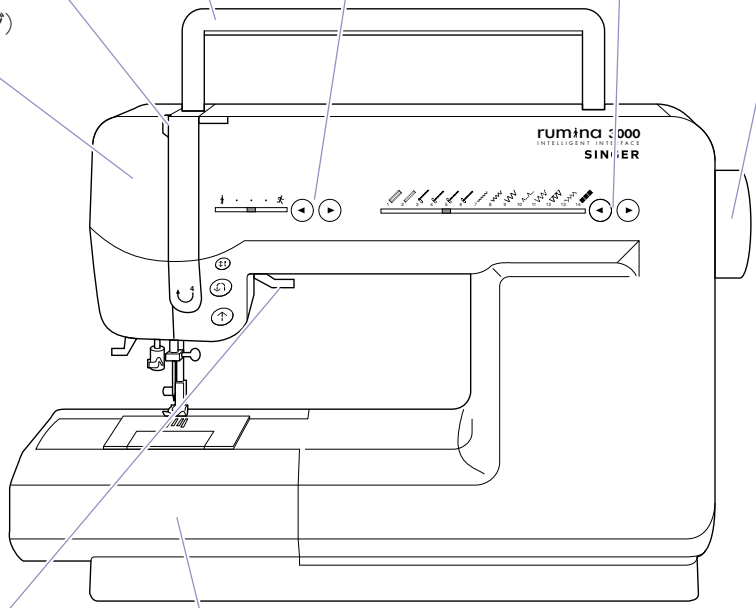


●補助テーブルの取りはずし方
テーブルの左下に指をかけ、左に引きます。
取り付けは、右にすべり込ませます。

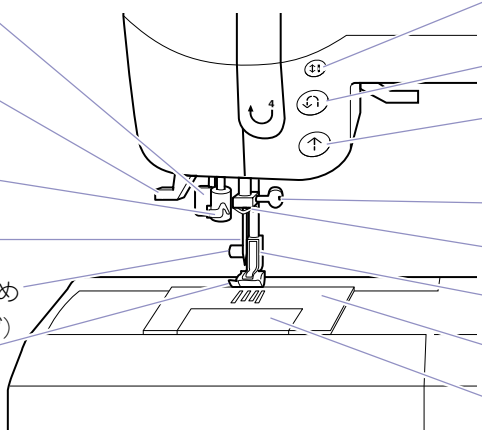
●補助テーブルのあけ方
フタの中央に指をかけて、手前に開きます。

各部のなまえ

天びん（12ページ）
ハンドル
スピード調節ボタン（8ページ）
模様選択ボタン（9ページ）
はずみ車
面板（34ページ）
押え上げレバー
補助テーブル（5ページ）（付属品—5ページ）



ボタンホールレバー（24ページ）
糸通しレバー（13ページ）
糸通し（13ページ）
針（18ページ）
押えホルダー止めねじ（32ページ）
押え（18ページ）
針上下ボタン（8ページ）
返しぬいボタン（8ページ）
スタート・ストップボタン（8ページ）
針止めねじ（18ページ）
糸かけ（12ページ）
押えホルダー（18ページ）
針板（35ページ）
すべり板（10ページ）



糸巻き押え
（付属品に入っています）

糸巻き案内
（10ページ）

糸かけ
（下糸巻き10ページ・
上糸かけ12ページ）

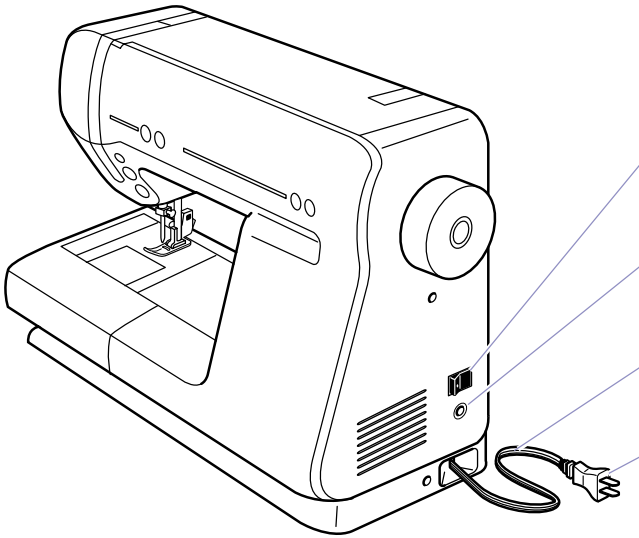
糸立て棒

トップカバー

上糸調節ダイヤル（16ページ）

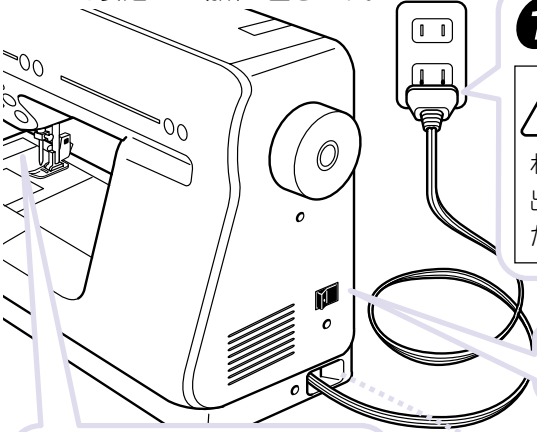
ぬい目の長さ調節ボタン
（9ページ）

糸巻き軸（10ページ）



電源を入れましょう

ミシンを安定した場所に置きます。



1 電源コードを引き出し、プラグをコンセントに差し込みます。

警告：感電、火災を防ぐために；
コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤いマーク以上引き出さないでください。黄色のマークが出たら、まもなく赤いマークです。

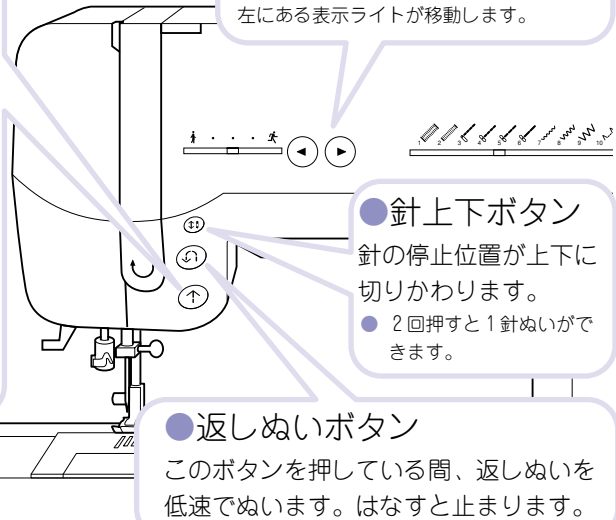
2 電源スイッチを入れます。

3 電源を入れると、ランプが点灯します。

模様は、自動的に直線ぬい（ 5 ）が選ばれます。

● コードをしまうときは、コードを少し引っ張って、はなしてください。

手元操作ボタン



●スタート・ストップボタン（お知らせランプ）

1度押すとスタートし、もう1度押すとストップします。

ぬい始めはゆっくり回ります。

みどりの点灯 ... ぬい準備OK
みどりの点滅 ... 下糸巻きの状態
（10ページ「下糸の準備」参照）
赤の点灯 ..... 押えが下りていません。
赤の点滅 ..... ボタンホールレバーを下げてください。

赤のランプがついているときは、ボタンを押しても、スタートしません。

●スピード調節ボタン

右のボタンを押すと速く、左のボタンを押すとゆっくりになります。

左にある表示ライトが移動します。

●針上下ボタン

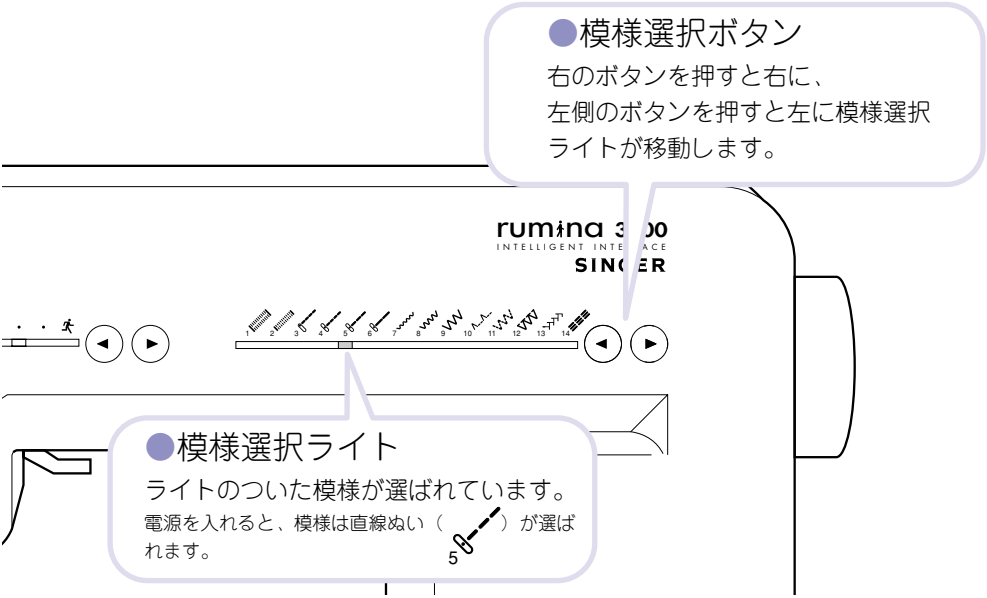
針の停止位置が上下に切りかわります。

● 2回押すと1針ぬいができます。

●返しぬいボタン

このボタンを押している間、返しぬいを低速でぬいます。はなすと止まります。

模様の選び方



ぬい目の長さの調節（手動にするには…）

通常、ぬい目の長さは、その模様に最適な長さにセットされています。

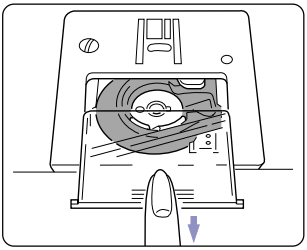
●ぬい目の長さの目安

模様		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
自動		0.5	0.5	2.0	1.5	2.5	3.5	1.5	2.0	2.0	2.0	1.0	2.5	2.5	2.5
手動	最大	1.0	1.0	4.0	2.2	3.0	4.0	1.8	2.5	2.5	3.5	1.8	2.5	2.5	2.5
	最小	0.3	0.3	0.5	1.0	1.5	2.5	0.5	0.3	0.3	1.2	0.5	1.0	1.0	1.0

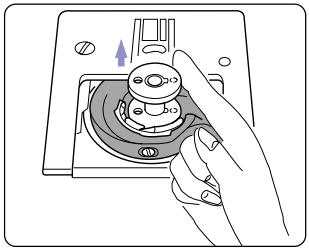
下糸の準備

●ボビンの取り出し方

1 すべり板を手前に引いて、取りはずします。



2 ボビンを取り出します。



●下糸の巻き方

番号順におこないます。

1 糸巻きを入れ、糸巻き押えを差し込みます。
切りみぞがある場合は右にセットします。

2 糸かけにかけます。

3 糸巻き案内にかけます。
●中までしっかり巻きつけてください。

4 ボビンの穴に糸を通します。

5 ボビンを糸巻き軸に差し込み、右へ押しつけます。
お知らせランプがみどり色に点滅します。

6 糸はしを持ちながら、ミシンをスタートさせます。
●スピードを、ゆっくりに調節します。

7 少し巻いたら、いったん止めて、余分な糸を切ります。

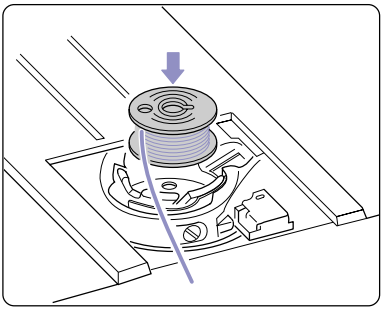
8 もう一度スタートさせます。
●スピードを調節します。

9 巻き終わったら、ミシンをストップさせます。

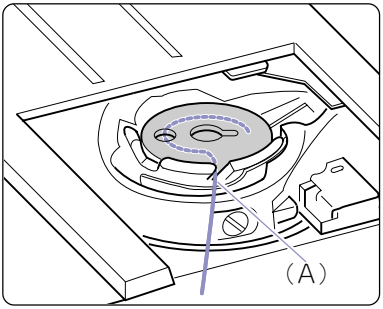
10 糸を切り、糸巻き軸を左に戻して、ボビンをはずします。

●ボビンのセット

1 糸が図のような方向から出るようにして、ボビンを入れます。

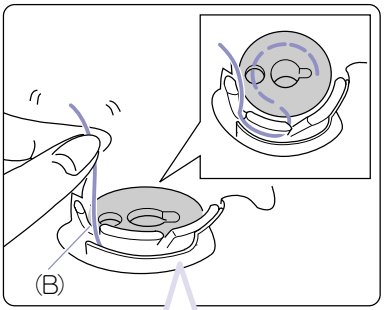


2 糸を手前のみぞ（A）にかけます。

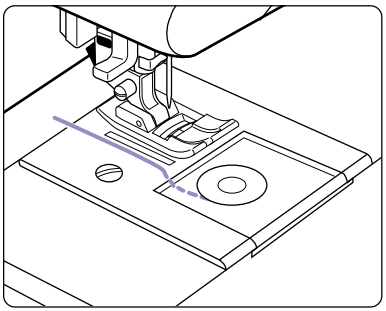


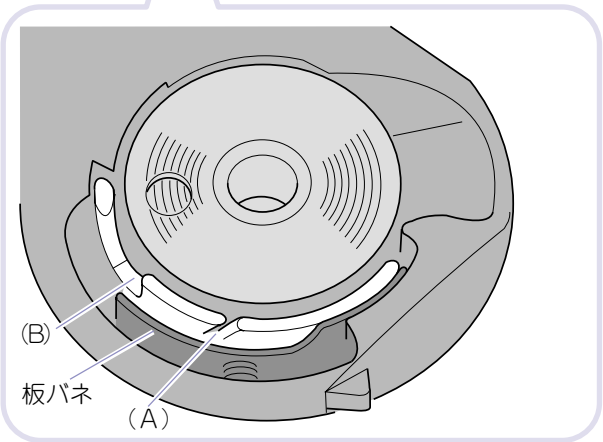
お知らせ：
ボビンは、専用のものをお使いください。

3 糸をみぞにかけたまま、左に引き、板バネの内側を通るようにして、みぞ（B）にかけます。



4 糸を10cmくらい引き出して、すべり板を取り付けます。

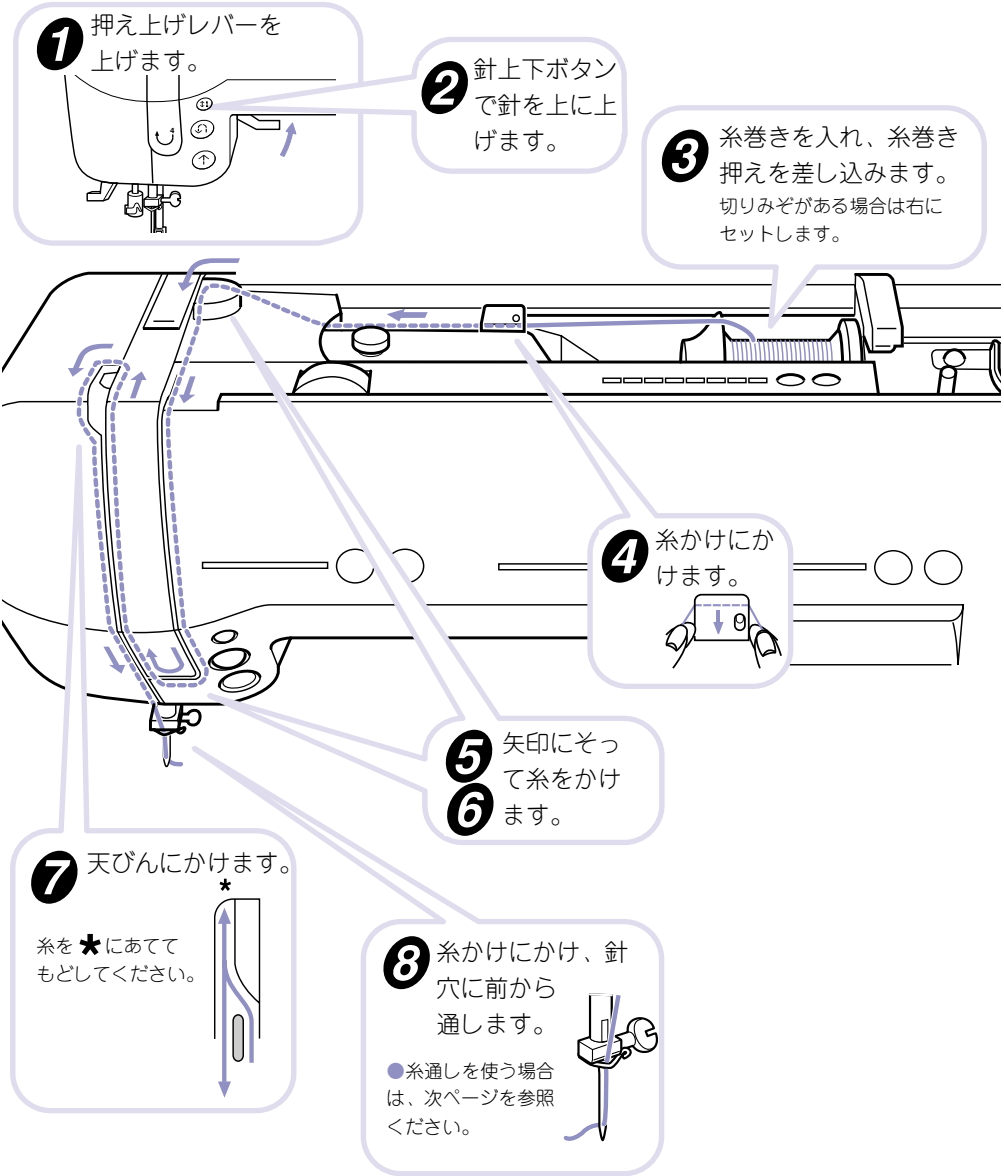




上糸の準備

●上糸のかけ方

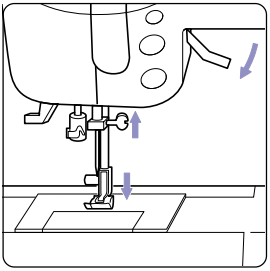
順序よく、正しくかけてください。



●糸通しの使い方

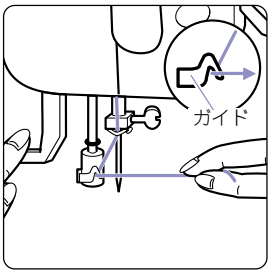
注意：ケガ防止のために；
ミシンが動いているときに糸通しレバーは、下げないでください。

1 押えを下げます。
2 針上下ボタンで針を上に上げます。

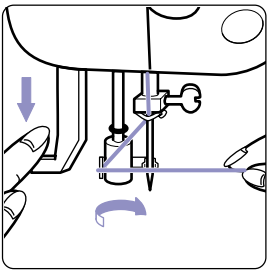


・ 針は11番、14番、16番が使えます。

3 糸通しレバーをかるく下げ、糸を糸通しのガイドにかけて、右にひいてきます。

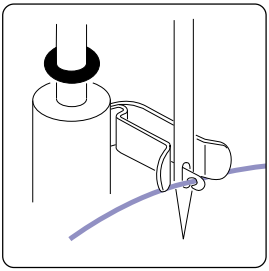


4 レバーをいっぱいに下げます。

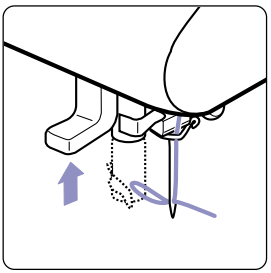


糸通しが回転し、フックが針穴を通ります。

5 フックの下に糸をかけます。

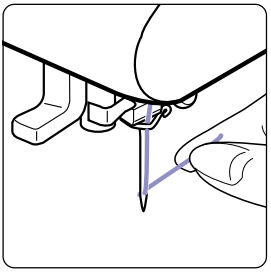


6 糸をかるく持ってレバーをはなします。



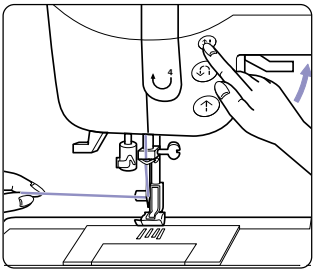
フックが戻り、糸が輪になって針穴を通ります。

7 糸はしを針穴から10cmくらい引き出しておきます。



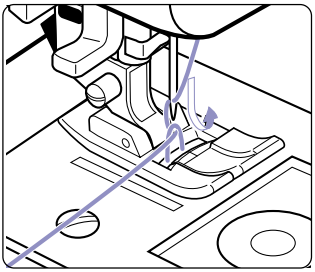
●下糸の引き上げ方

1 押えを上げます。
2 上糸をかるく持ちながら、針上下ボタンを2回続けて押します。

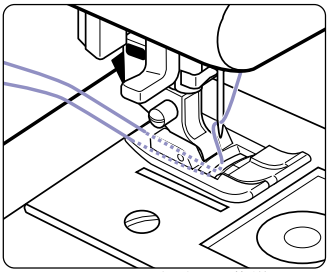


（はずみ車が手前に1回転します。）

3 上糸を静かに引くと、下糸が輪になって出てきます。



4 上糸と下糸をそろえて押えの下から10cmくらい後ろへ出しておきます。



ぬってみましょう

電源を入れると、直線ぬい（ 5 ）が選ばれます。

●ぬい始め〜ぬい終わり

1 押えを確かめます。（ジグザグ押え）

押えの取りかえ方は18ページを参照ください。

ぬいながらスピードを調節できます。

注意：ケガ防止のために；
針先には十分注意してください。

2 布地を入れます。

3 押えを下げます。

お知らせランプがみどり色になります。

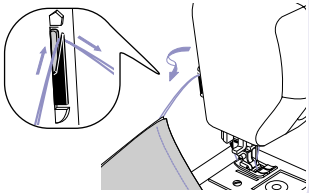
4 糸はしをかるく後ろに持ちながら、スタートさせます。

少しぬったら糸をはなします。

5 終わりまで来たら、ストップします。

6 押えを上げます。

7 布を引き出し、糸を糸切りに後ろから手前にかけて切ります。

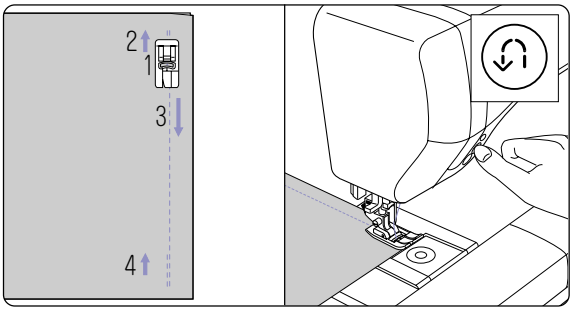


注意：ケガ防止のために；
布地は、ミシンによって自動的に送られますので、無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が折れケガをする恐れがあります。

●返しぬい

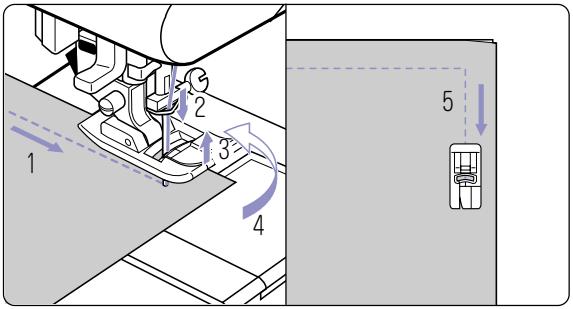
ぬい目のほつれを防ぐため、ぬい始めとぬい終わりに返しぬいをします。

1 返しぬいの分、布を奥に入れて、押えを下げます。
2 返しぬいボタンを押しながら、4～5針返しぬいをします。
ボタンをはなすと止まります。
3 スタートボタンを押して、ぬい進めます。
4 終わりまで来たら、返しぬいボタンを押します。



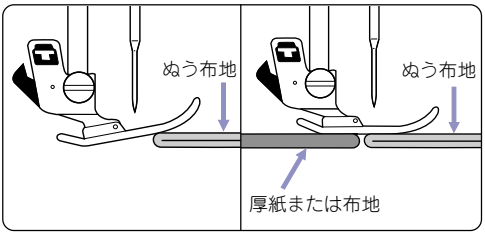
●ぬい方向の変え方

1 布地の角まで来たら、ストップします。
2 針を下げ、布に刺します。
針を下げるには、針上下ボタンを押すか、はずみ車を手前に回します。
3 押えを上げます。
4 針を軸にして布地を回し、ぬい方向にセットします。
5 押えを下げて、ぬい始めます。

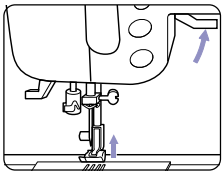


●厚地のぬい始め

厚地の布はしからぬい始めるときに、押えが傾いてスムーズにぬえないことがあります。このようなときは、押えの下に、同じ厚さの布や厚紙をあてがってぬい始めます。

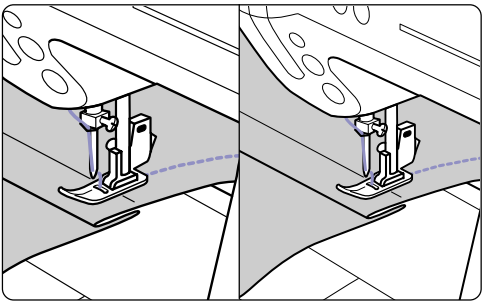


● 押え上げレバーをさらに上げると、押えがもう一段上がり、厚地の布が入れやすくなります。



●段ぬい

布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。

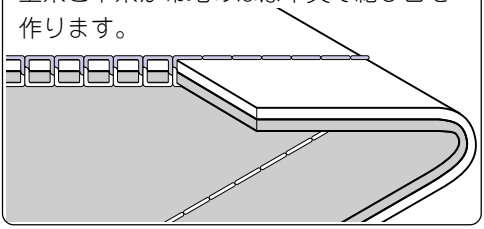


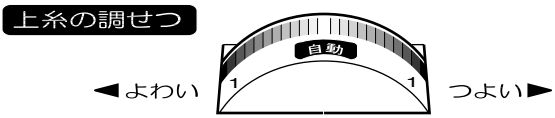
糸調子のとり方

通常、上糸調節ダイヤルを「自動」に合わせると、正しい糸調子になるよう調節されています。

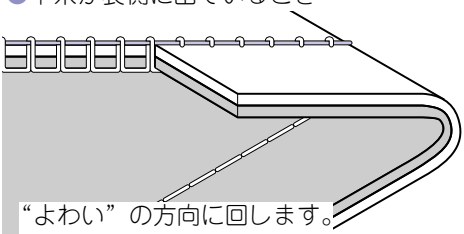
布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合や、ギャザー寄せなどをするときは、下図のように上糸調節ダイヤルを回して、調節してください。

●正しい糸調子
上糸と下糸が布地のほぼ中央で結び目を作ります。



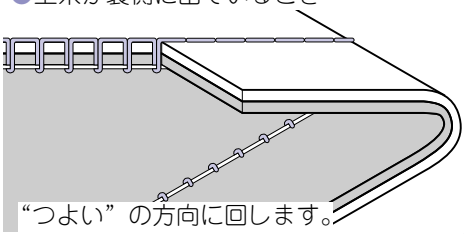


●下糸が表側に出ているとき



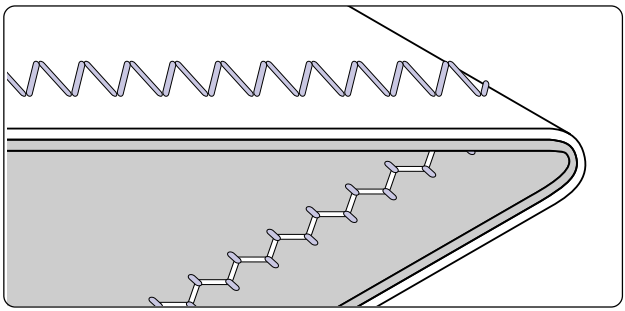
“よわい”の方向に回します。

●上糸が裏側に出ているとき



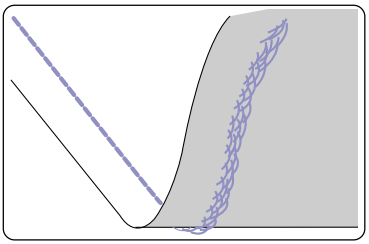
“つよい”の方向に回します。

●ジグザグぬいの糸調子
ジグザグぬいの場合は、直線ぬいのときより上糸調子をやや弱めにして、上糸が布の裏側に少し出るようにしますと、きれいにぬえます。

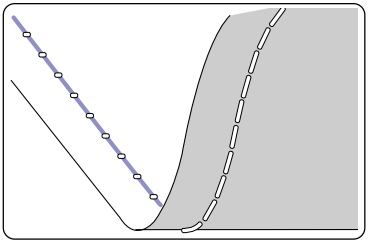


●こんな場合は…

図のように布地の上側は普通にぬえて、下側がタオル地のようになるときは、上糸の通し方（とくに、上糸調節装置への）が違っています。12ページをご覧の上、正しくかけ直してください。



また、上糸調節ダイヤルを「よわい」に回しても、下糸が布地の表側に出てくるときは、ボビンのセットの仕方がちがっています。11ページをごらんの上、正しくセットし直してください。



糸と針の選び方

糸と針は、布地の種類や厚さに合わせて選びます。

布地の種類	糸の番号	針の番号	模様（直線ぬい）
●薄地―薄地ジョーゼット、オーガンディー、ボイル、タフタ、絹布など。	綿　80～100 絹　60～80 化繊糸 80～100	9～11番	3　4
●普通地―ギンガム、ピケ、リンネル、さらさ木綿、サテン、薄手のコーデュロイ、別珍、一般服地など。	綿　50～80 絹　50 化繊糸 50～80	11～14番	5
●厚地―ギャバジン、ツィード、デニム、キルティング、コーデュロイなど。	綿　30～50 絹　50 化繊糸 30～60	14～16番	6
●伸縮性の布地―ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど。	化繊糸 50～80 絹　50 ニット用糸	11～14番 ニット用針	14

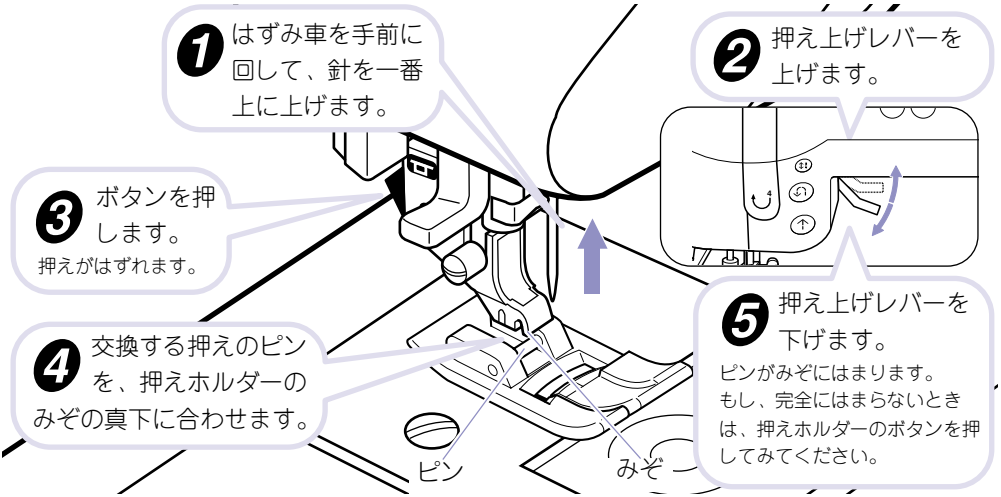
注意：ケガ防止のために；
針は、家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。

● 針の取りかえ方は次ページを参照ください。

押えの取りかえ方

押えは、ぬいの種類や用途によって使い分けます。それぞれのぬいに適した押えが20ページ以降に示してあります。

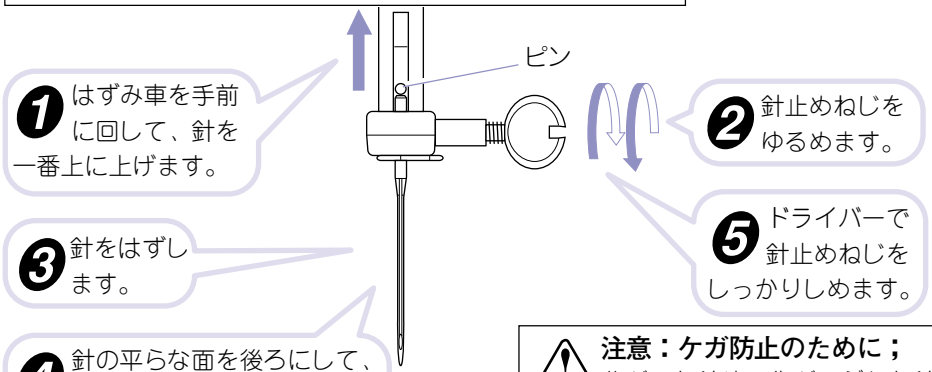
注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行なってください。



針の取りかえ方

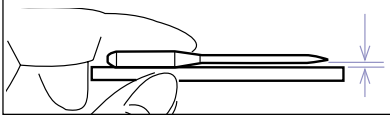
針は、布地や糸に合わせて選びます。前ページの「糸と針の選び方」を参照ください。

注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行なってください。

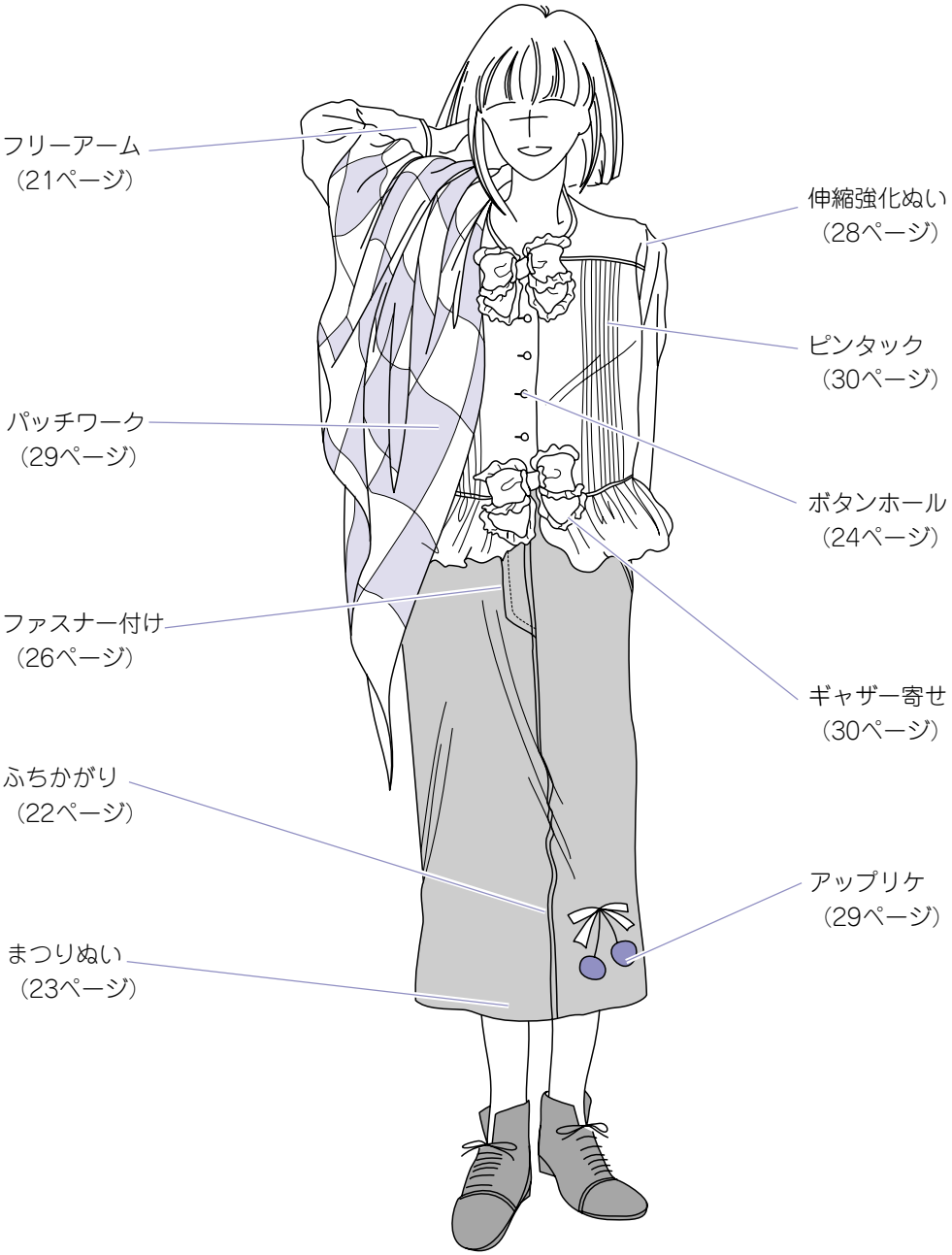


注意：ケガ防止のために；
曲がった針や、先がつぶれた針はご使用にならないでください。

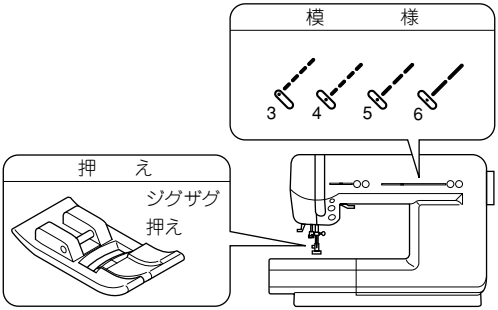
取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。

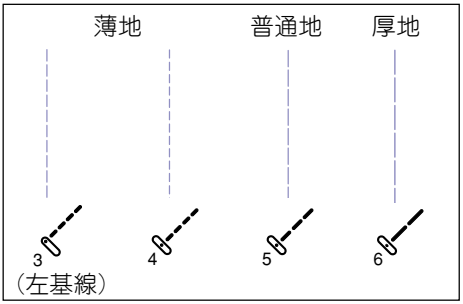


いろいろなぬい方


フリーアーム
（21ページ）
伸縮強化ぬい
（28ページ）
ピンタック
（30ページ）
パッチワーク
（29ページ）
ボタンホール
（24ページ）
ファスナー付け
（26ページ）
ギャザー寄せ
（30ページ）
ふちかがり
（22ページ）
アップリケ
（29ページ）
まつりぬい
（23ページ）

直線ぬい





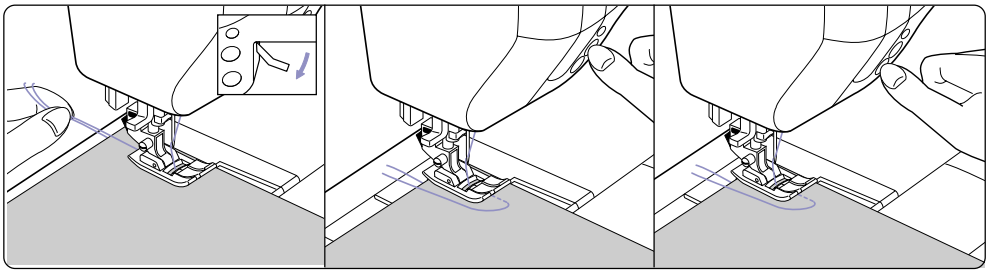
● 布地にあわせて、模様を選びます。

左基線ぬい（ 3 ）は、薄地やはしぬいに適しています。

1 返しぬいの分、布を奥に入れて押えをおろします。

2 返しぬいボタンを押します。

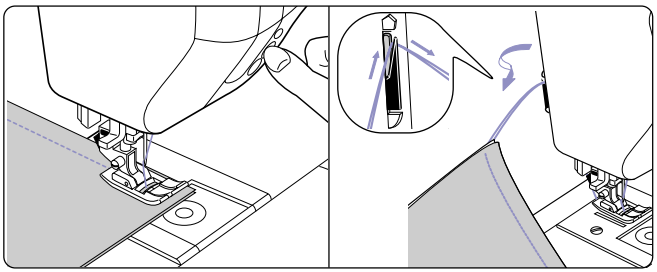
3 スタートボタンを押して、スタートさせます。



上・下糸をかるく持ちます。　ボタンをはなすと止まります。　手は布にかるくそえるようにします。

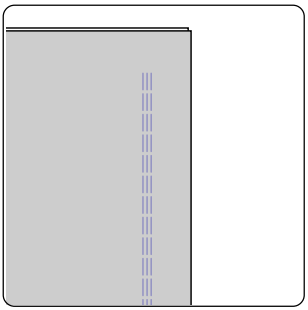
4 ぬい終わりまできたら、返しぬいボタンを押して、返しぬいをします。

5 押えを上げ、糸を切ります。

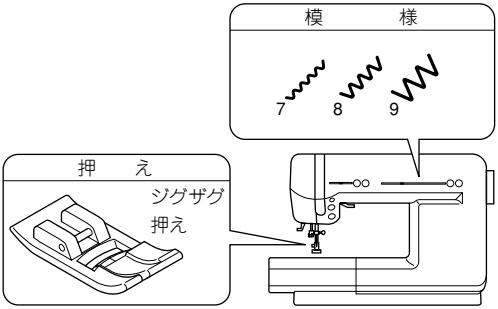


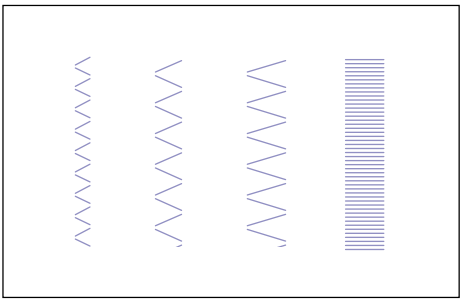
返しぬいをしないときは、スタート・ストップボタンを押して、ストップさせます。

● 伸縮性のある布地のときやぬいを丈夫にしたいときは、伸縮強化ぬいが適しています。（28ページを参照ください。）

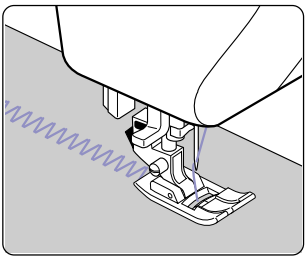


ジグザグぬい





布地のはぎあわせやふちかがり、アップリケなどのほか、飾りぬいにも広く用いられます。

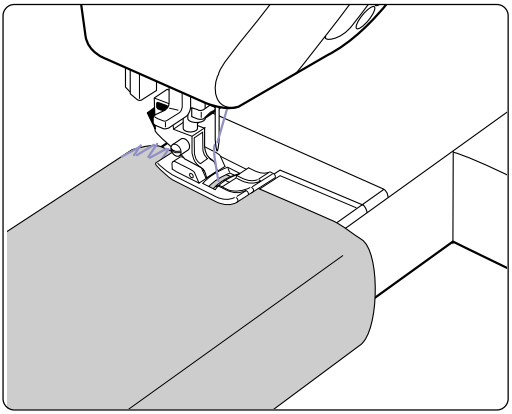


●ふちかがりぬい、アップリケはそれぞれ22ページ、29ページを参照ください。

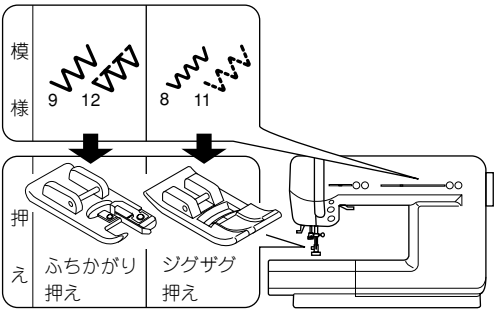
フリーアームぬい

補助テーブルを取りはずすだけでフリーアームミシンになります。
袖口や肩口の始末、ズボンのすそのまつりぬいなどが簡単にできます。

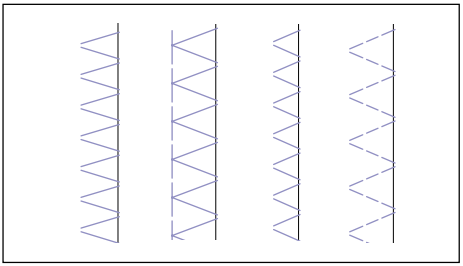
- 補助テーブルの取りはずし方は5ページを参照ください。
- ズボンのすそのまつりぬいは23ページを参照ください。

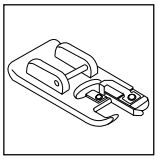


ふちかがりぬい（たち目かがり）

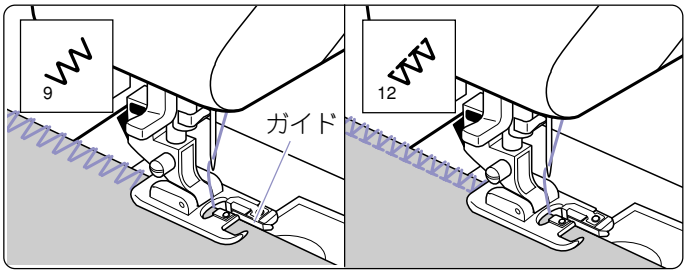


あらゆる布地のたち目のほつれを防ぐぬい方です。





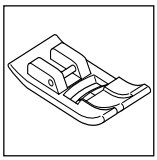
ふちかがり押えを使う場合：
布はしを押えのガイドにあて、針が布はしいっぱいに落ちるようにしてぬいます。



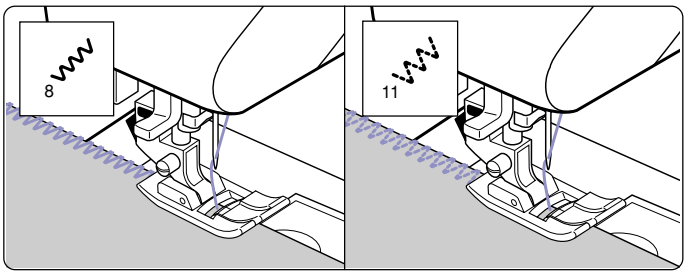
たち目のほつれ止めとして、広く利用します。

かがりぬいと地ぬいが同時にでき、ほつれやすい布や伸縮性のある布のぬい合わせに適しています。

注意：ケガ防止のために；
ふちかがり押えは、必ず模様（9）と（12）だけにお使いください。ほかの模様では、針が押えにあたり、危険です。



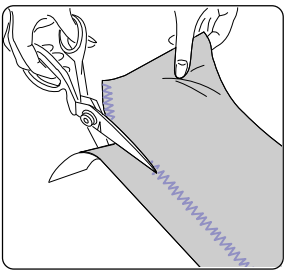
ジグザグ押えを使う場合：
針が布はしぎりぎりに落ちるようにしてぬいます。



薄地の布をかがるときに使います。

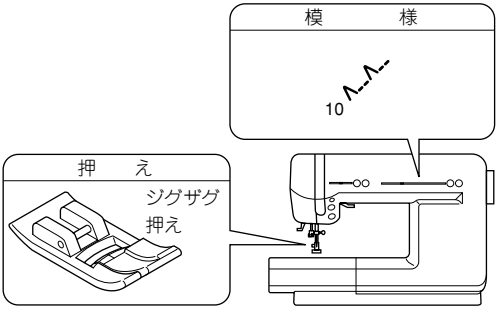
ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。

あらかじめ布地の内側をぬい、あとからぬいはしを切り落とす方法もあります。

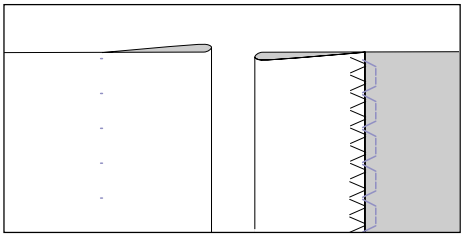


この場合、ぬい糸を切らないように注意してください。

まつりぬい（ブラインドステッチ）

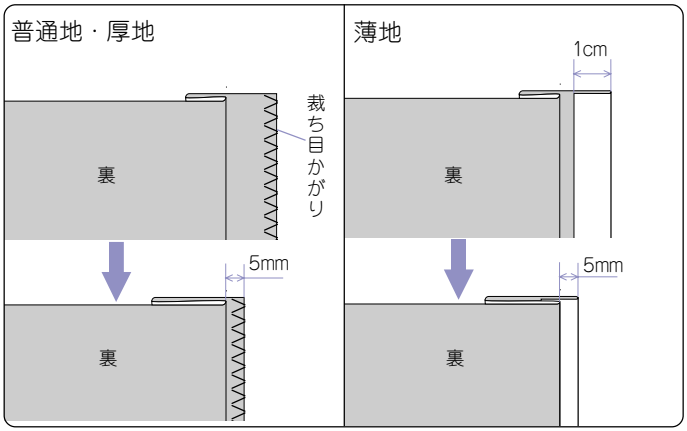


布地の表面に目立たないぬい目を作るぬい方です。
ズボンやスカートのすその仕上げなどに使います。



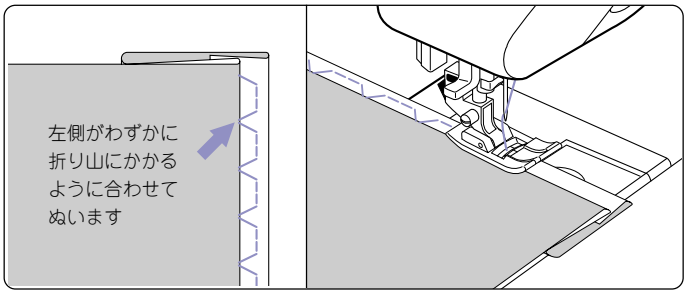
1 布を図のように折ります。

ぬい上がり後の布地の裏・表を間違えないように注意してください。

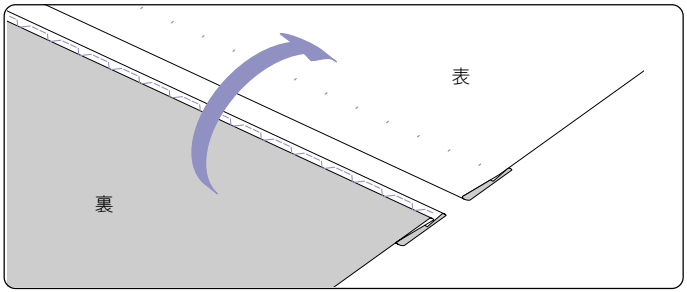


2 針が最も左側にきたときに折り山にわずかにかかるように布の位置を合わせてぬいます。

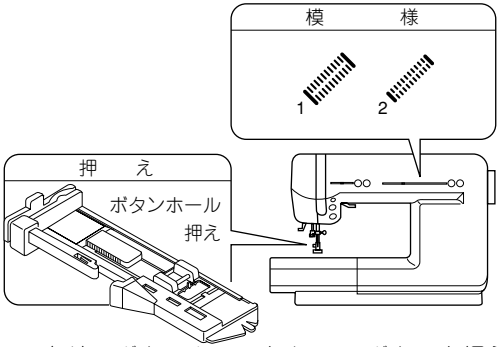
模様を選ぶと針は、左にくるようになっています。



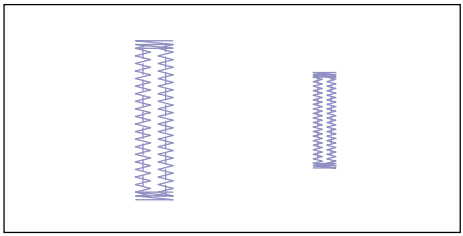
3 ぬい終わりましたら、布を返します。



ボタンホールぬい

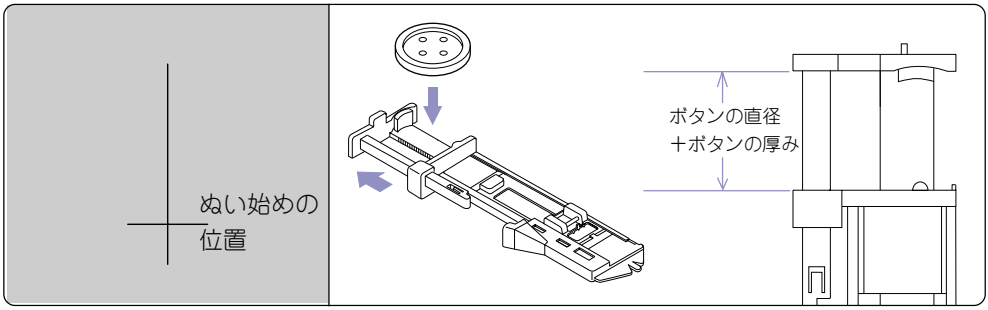


大小 2 種類のボタンホールをワンタッチでぬうことができます。



1 布地のボタンホールをぬう位置に印をつけます。

2 ボタンを押えの台にセットします。

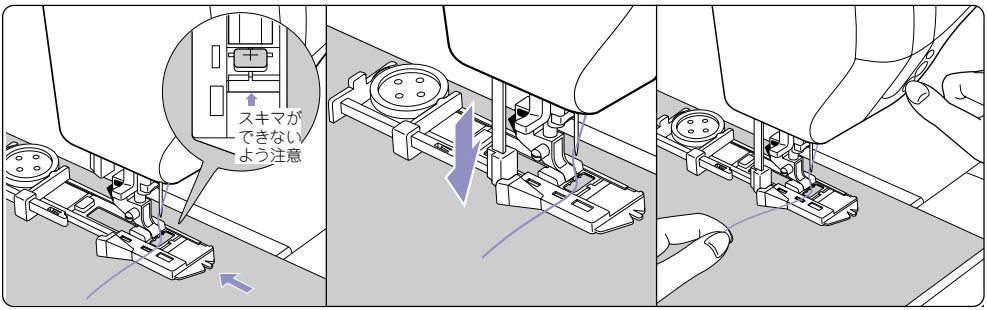


● 台にボタンがのらないとき
台の幅が「ボタンの直径＋ボタンの厚み」になるようにスライドさせます。

3 布の印が押えの印に合うように布地を入れ、押えを下げます。

4 ボタンホールレバーをいっぱいに下げます。

5 上糸を持ちながら、スタートさせます。

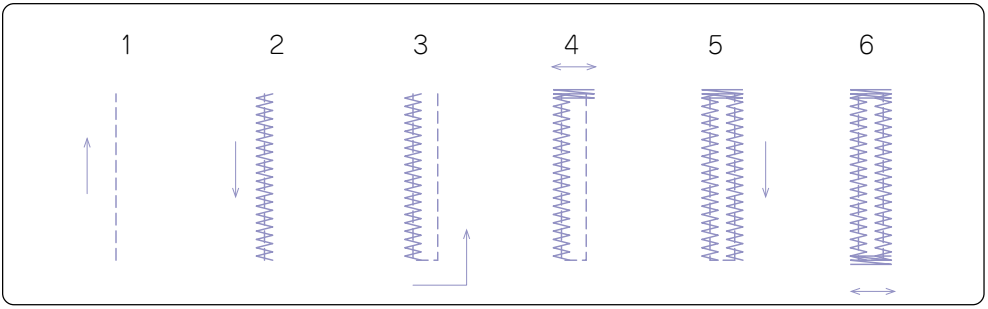


押えの枠と押えの間にスキマができないよう、枠を一番向こう側に戻してください。

ボタンホールレバーはきちんと下げてください。

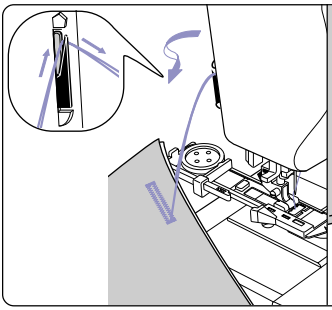
押えの枠と、ボタンホールレバーが正しい位置にないと、お知らせランプが赤く点滅し、スタートしません。

6 図の順序でボタンホールがぬわれていきます。



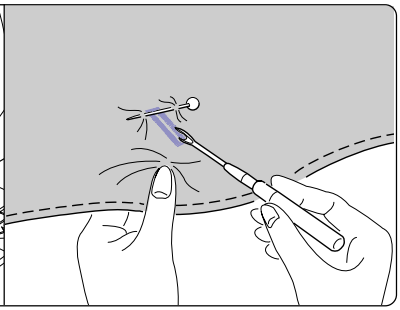
ぬい終わると、お知らせランプが赤く点滅します。

7 押えを上げ、糸を切ります。



ボタンホールをもう一度ぬうには、押えを一回上げてください。
（押えが最初の位置にもどります）

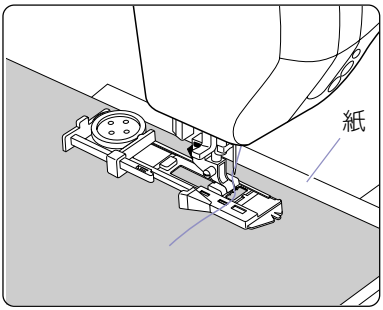
8 シームリッパーで穴を開きます。



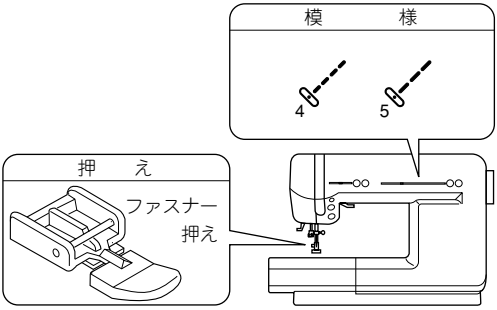
ぬい糸を切らないように注意してください。
かん止めのところにまち針を刺しておくと、切り過ぎがありません。

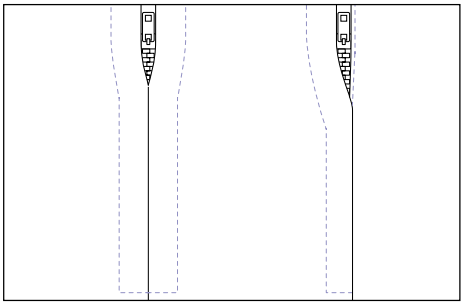
注意：ケガ防止のために；
シームリッパーで、穴を開く時、リッパーの先端に手や指をおかないでください。すべった時ケガをする恐れがあります。

● 伸縮性のある布地の場合
裏に紙などをしいてぬいます。
ぬい終わったら、紙を取り除きます。



ファスナー付け（つき合わせ・脇あき）



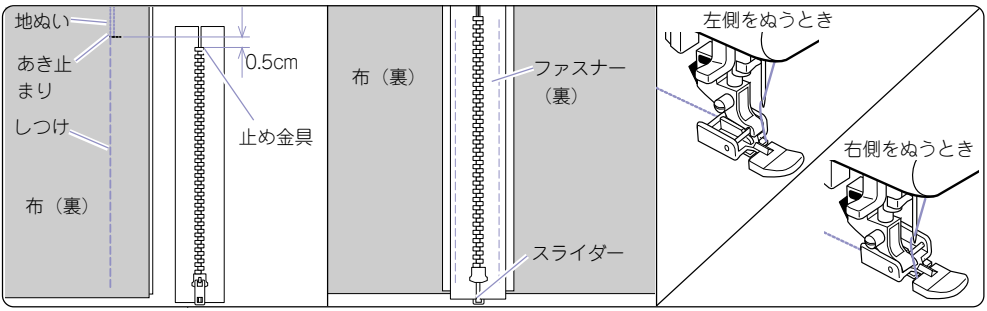


●つき合わせ

1 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。

2 ぬい代をわり、ファスナーをしつけます。

3 ファスナー押えを取り付けます。



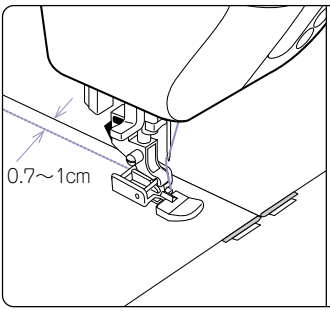
あき部分はしつけをします。

ぬい目線とファスナーの中心を合わせてとめます。
スライダーは手前に倒します。

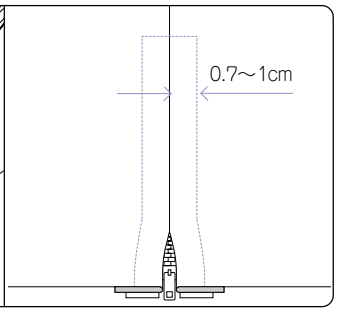
ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

4 ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。

5 あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。



布の合わせ目から0.7～1cm はなしてぬいます。



右側も同様に0.7～1cm はなしてぬいます。

注意：ケガ防止のために；

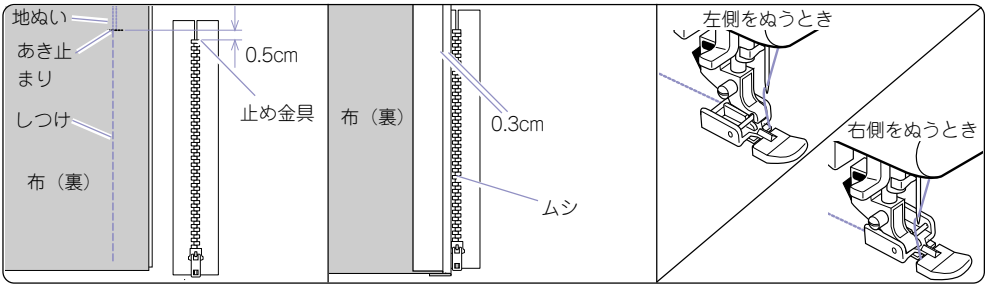
ファスナー押えは、必ず模様（4）と（5）だけにお使いください。ほかの模様では、針が押えにあたり、危険です。

●脇あき

1 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。

2 ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3cm出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。

3 ファスナー押えを取り付けます。



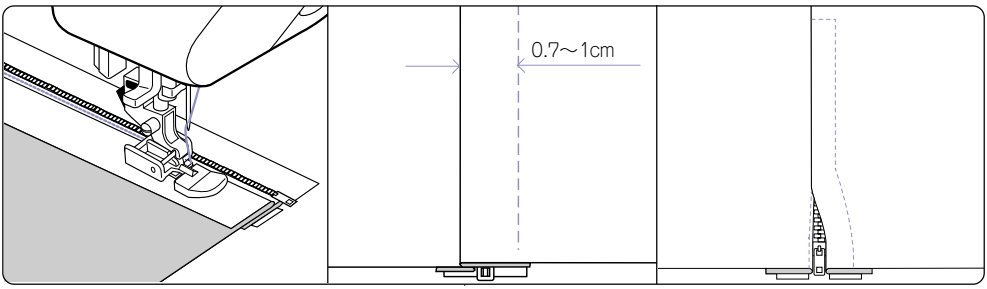
あき部分はしつけをします。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞをホルダーに入れます。

4 ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。

5 上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。

6 スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

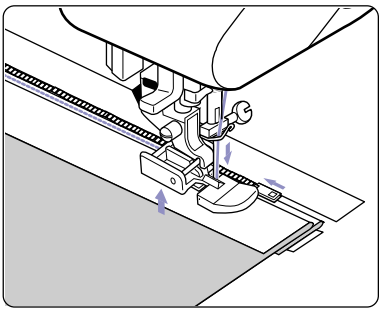


押えがファスナーのムシにのらないようにしてぬいます。

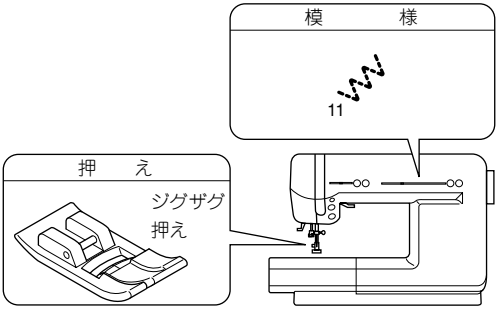
右側は、布の折り目から0.7～1cmはなしてぬいます。

● スライダーをよけてぬうには：

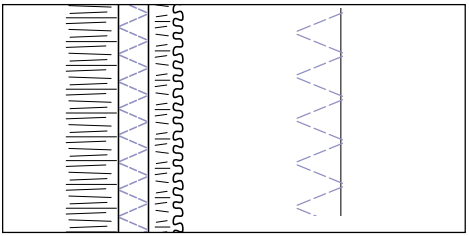
1 スライダーの手前でミシンを止めます。
2 針を下げて布に刺します。
3 押えを上げて、スライダーを向こう側へ下ろします。
4 押えを下げてぬい続けます。



つくろいぬい（点線ジグザグぬい）

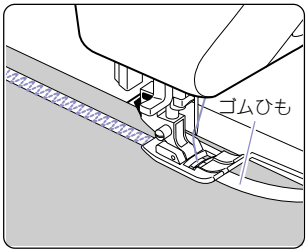


ゴムひものぬい付けや、伸縮性布地のたち目かがりなどに利用します。



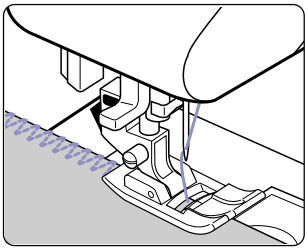
● ゴムひも付け

ゴムひもを前後に伸ばしながらぬい付けます。

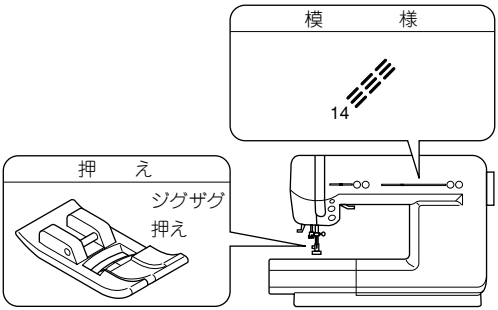


● たち目かがり

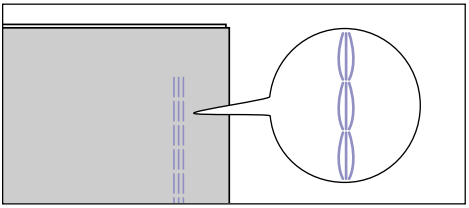
ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。針を布はしぎりぎりに落としてぬいます。



伸縮強化ぬい



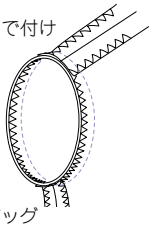
直線の 3 重ぬいです。伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れません。また非常に強いぬい目です。



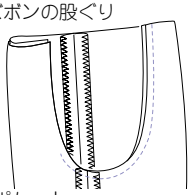
ジャージー・メリヤスなどの伸縮性布地や、力がかかってほつれやすい部分、デニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。

伸縮性布地をぬう場合は、ニット針を使うと、目飛びや糸切れを防ぎます。

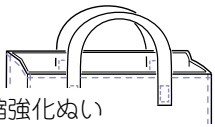
●そで付け



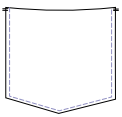
●ズボンの股ぐり



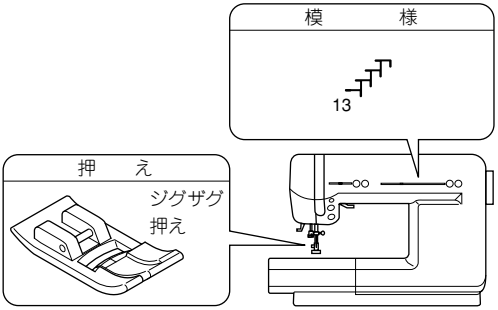
●バッグ



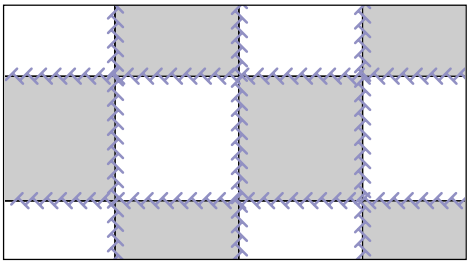
●ポケット



パッチワーク



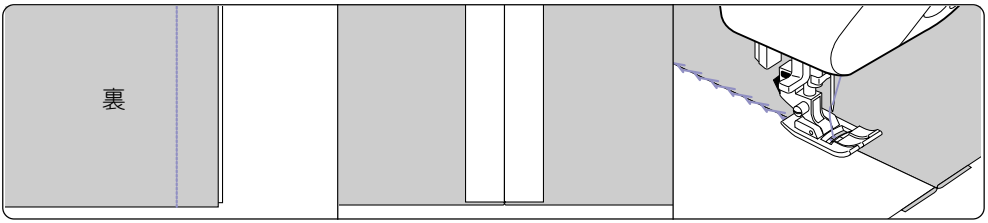
いろいろな布をはぎ合わせ、装飾に用います。



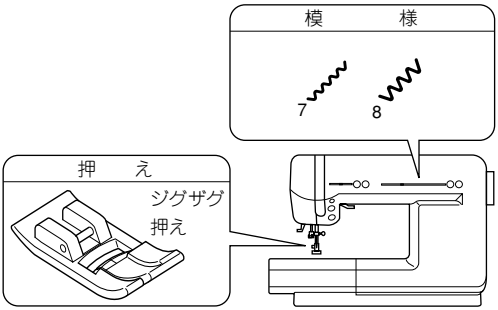
1 2 枚の布地を中表に合わせ地ぬいをします。

2 ぬい代をわります。

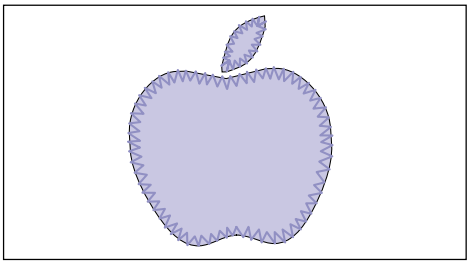
3 両方の布地に模様がまたがるようにしてぬいます。



アップリケ



市販や自作のアップリケ布を丈夫にぬい付けます。

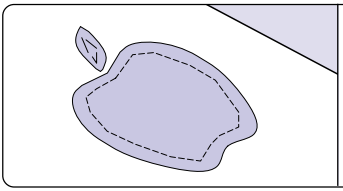


1 アップリケ布を止めます。

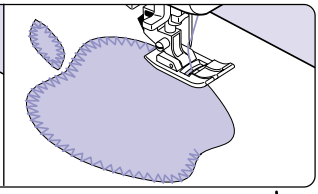
2 アップリケの布はしをたち目かがりと同じ要領でぬいつけます。

● 急な角度をぬう場合

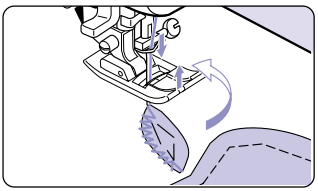
布はしに針を落とした状態で押えを上げ、布地を回します。



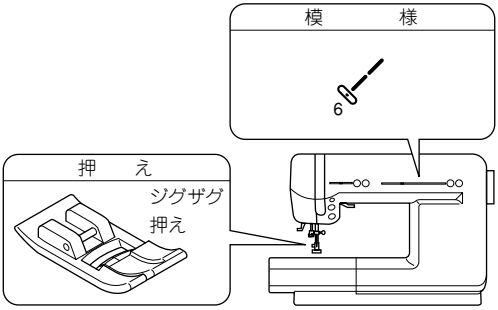
のりづけまたはしつけをします。



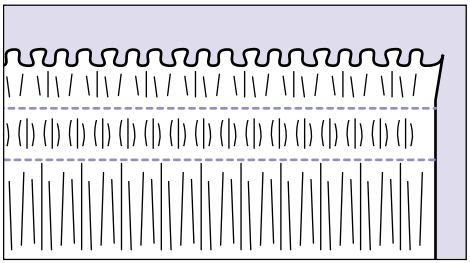
カーブの強いものは模様（ 7 ）でぬいます。



ギャザー寄せ



シャツやブラウスのそで口などに使います。



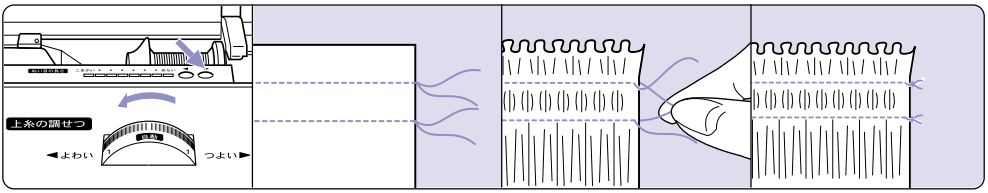
1 ぬい目の長さをあらくします。

2 上糸を弱くします。

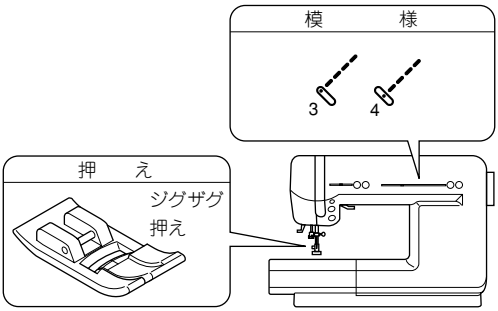
3 ぬい始めと終わりの上、下糸を5cmくらい出して、2本平行にぬいます。

4 下糸を引いて布地を縮めます。

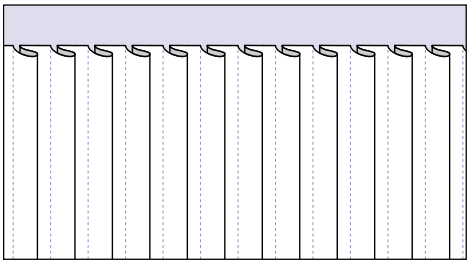
5 糸はしを結び、ギャザーを整えます。



ピンタック



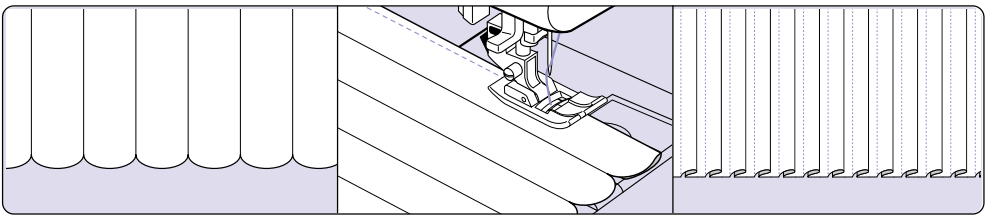
ブラウスなどの装飾に使います。



1 アイロンでピンタックの折り山を整えます。

2 折り山を伸ばさないようにしながら、ピンタックをぬいます。

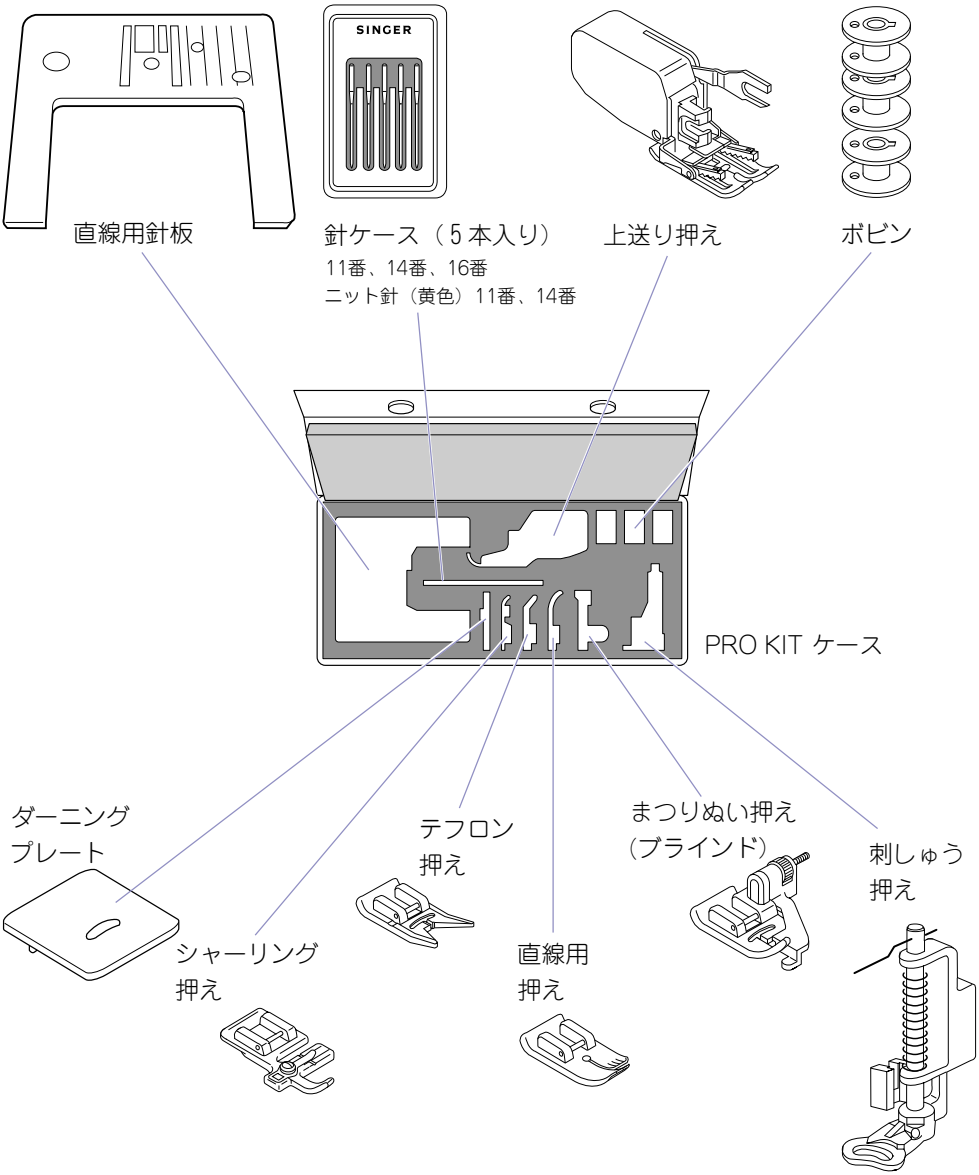
3 アイロンで片側に倒します。



PRO KIT のご案内（別売り）

ホームソーイングの楽しい世界をより広げる付属品のセットです。

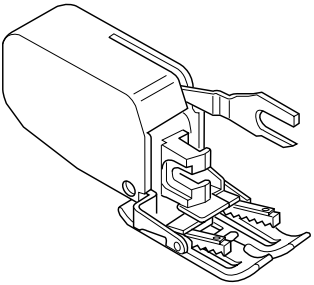
●購入方法については、38ページを参照ください。



上送り押えのご案内（別売り）

●購入方法については、38ページを参照ください。

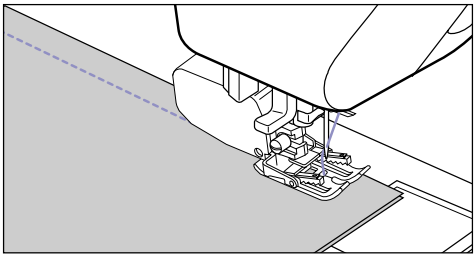
くっついたり、伸びたり、また、すべりやすい布地に上送り押えを使うと 2 枚の布地がずれることなく、きれいで均一なぬい目が得られます。

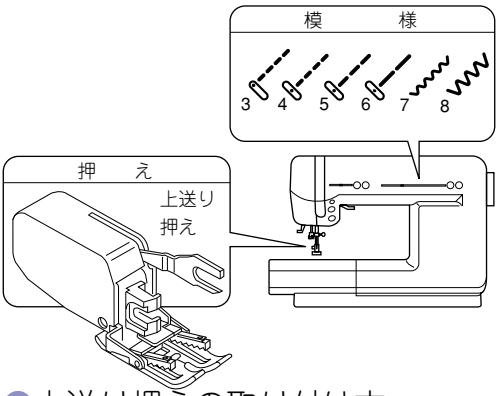


次のような布地にお使いください。

- ●格子じまやしま地
- ●ビニール、レザーや、つやのある布地
- ●パイル地、けば立った布地
- ●ベルベットやとくにすべりやすい化繊地

●長いぬい合わせに…



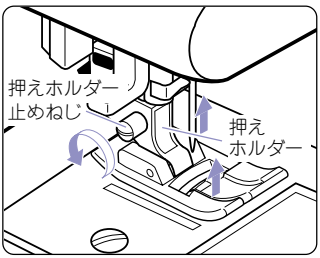


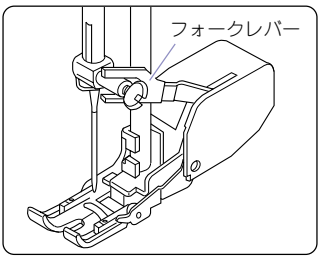
注意：ケガ防止のために；
上送り押えは、必ず左記の模様だけにお使いください。また、スピードをゆっくりにしてぬってください。

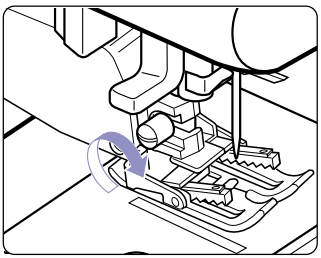
●上送り押えの取り付け方

注意：ケガ防止のために；
必ず、電源スイッチを切ってから行なってください。

1. はずみ車を手前に回し、針を一番上に上げます。
2. 押え上げを上げます。
3. 押えホルダー止めねじをはずし、押えと押えホルダーを取りはずします。
4. 上送り押えのフォークレバーを針止めの軸にかけます。
5. 押えのホルダー部を押え棒に取り付け、押えホルダー止めねじをしっかりとしめます。







コントローラーのご案内（別売り）

●購入方法については、38ページを参照ください。

コントローラーを使えば、足の操作でミシンのスタート・ストップ、スピードの調節ができるようになります。
コントローラーを接続するとスタート・ストップボタンはきかなくなります。

❶ 電源スイッチを切ります。

❷ コントローラーのプラグをミシンのジャックに差し込みます。

❸ コントローラーを足元に置き、電源を入れなおします。
ペダルを踏むとミシンがスタートし、強く踏み込むほどスピードが速くなります。
ペダルをはなすとストップします。
●スピード調節ボタンは、最高スピードを調節します。速くしたいときは、にセットしてください。

● コントローラーは、必ず「シンガー純正の専用品」をお使いください。

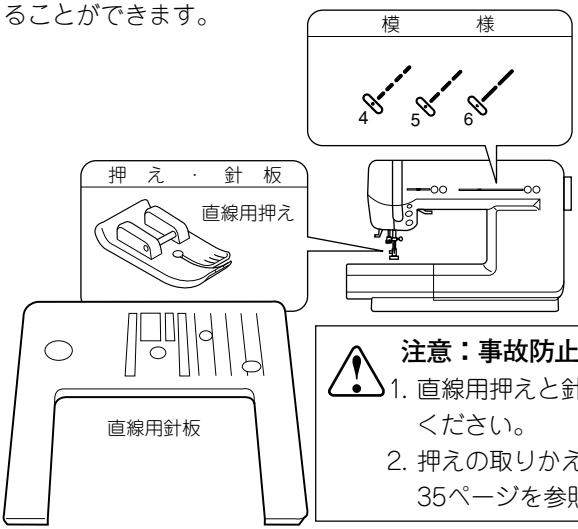
警告：感電、火災を防ぐために；
コントローラーは、落としたり、座ブトンの下において使用しないでください。

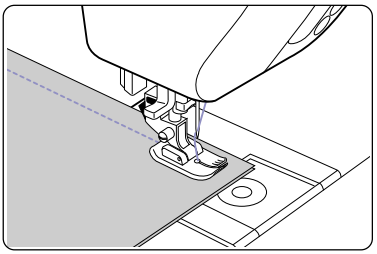
注意：ケガ防止のために；
コントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

直線用押えと針板のご案内（別売り）

薄い布地ややわらかい布地の直線ぬいには、直線用押えと針板を使うと、きれいに仕上げることができます。

● 直線用押えと針板はセットで販売しております。





注意：事故防止のために；
1. 直線用押えと針板は、必ず 4 5 6 だけにお使いください。
2. 押えの取りかえ方は18ページ、針板の取りかえ方は35ページを参照の上、正しく交換してください。

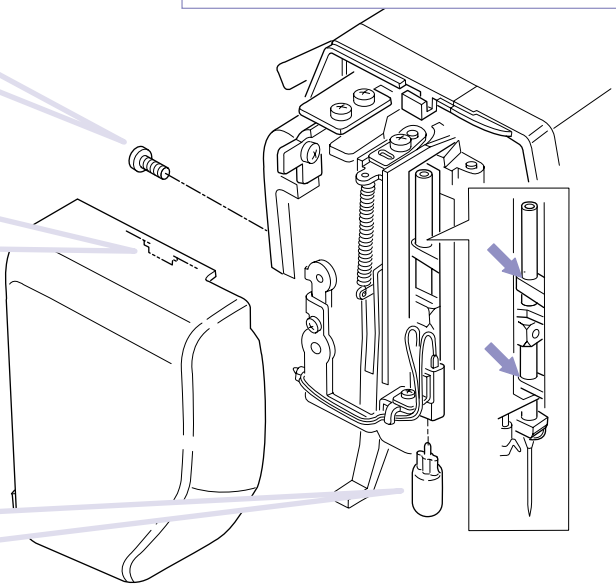
ミシンのお手入れ

警告：感電、ケガ防止のために；
お手入れの際は、必ず電源プラグを抜いてください。

●ランプの交換

注意：ケガ防止のために；
長時間使用していると、ランプが熱くなりやけどをする恐れがあります。
電源プラグを抜いて十分冷えてから交換してください。

このミシンは、特に注油の必要はありませんが、数カ月以上ご使用にならないときは、下図の矢印のところに１～２滴油をさしておいてください。
●かまには油をささないでください。



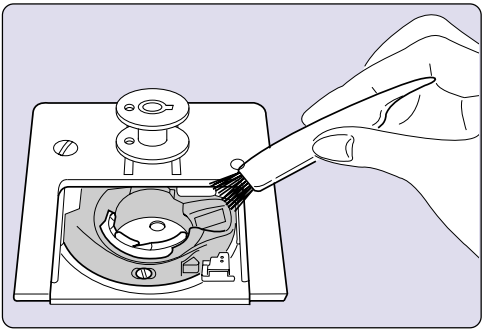
❶ 後ろのねじをゆるめます。

❷ 面板を左上に持ち上げながら取りはずします。
ツメが面板からはずれます。

❸ ランプを引き抜きます。
●ランプはお買い上げの販売店または部品注文書はがきにてお求めください。

●かまと送り歯の掃除

糸くずやほこりがたまると、ぬい調子を悪くしたり、故障の原因にもなります。
いつも清潔にしておいてください。

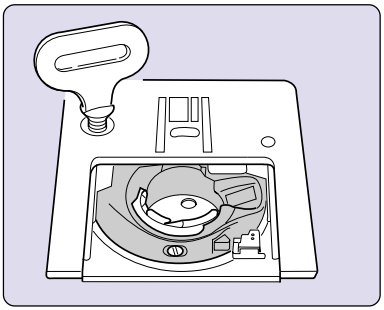


＊ ボビンケースの掃除

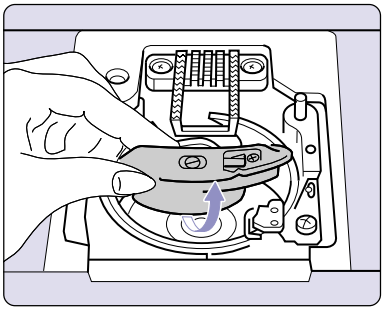
すべり板とボビンを取りはずし、ブラシなどで掃除してください。

＊ 外がまと送り歯の掃除（針板の取りかえ方）

1 針と押えを取りはずします。すべり板とボビンを取りはずします。ねじをはずし、針板を取りはずします。



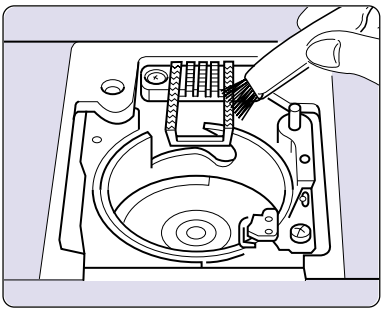
2 ボビンケースの手前を上に持ち上げて取り出します。



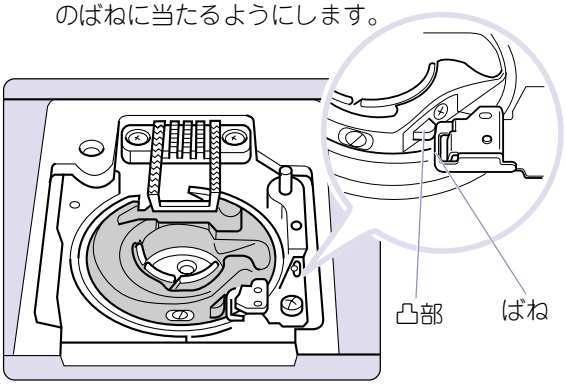
3 外がまと送り歯のまわりを掃除します。

●掃除機を使うときれいになります。

ボビンケースのよごれはかわいた布でかるくふき取ります。



4 ボビンケースを外がまの中に手前からすべり込ませます。
ボビンケースの凸部が回転止めのばねに当たるようにします。



こんなときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてみてください。

不調の状態	原因	処置	参照ページ
上糸が切れる	● 糸のかけ方がまちがっている ● ボビンケースに糸がからまっている ● 針の取りつけ方がまちがっている ● 糸調子が強すぎる ● 布地に対して糸が弱すぎる	正しくかけ直します からんだ糸を取りのぞきます 正しくつけ直します 適正な強さに調整します 布地と糸、針の関係を合わせます	12 35 18 16 17
下糸が切れる	● ボビンのセットがまちがっている ● ボビンケースに糸がからまっている ● かまにゴミがたまっている	正しくセットし直します からんだ糸を取りのぞきます 掃除します	11 35 35
ぬい目がとぶ	● 針の取りつけ方がまちがっている ● 針が曲がっているか、先がつぶれている ● 布地に対して糸と針が合っていない	正しくつけ直します 針を取りかえます 布地と糸、針の関係を合わせます	18 18 17
ぬい目にしわがよる	● 糸のかけ方がまちがっている ● ボビンのセットがまちがっている ● 針の先がつぶれている ● 糸調子が強すぎる	正しくかけ直します 正しくセットし直します 針を取りかえます 適正な強さに調整します	12 11 18 16
ぬい目に輪ができる	● ボビンのセットがまちがっている ● 糸のかけ方がまちがっている ● 糸調子がつり合っていない	正しくセットし直します 正しくかけ直します 適正な強さに調整します	11 12 16

糸通しができない	● 針が上に上がっていない ● 針の取りつけ方がまちがっている ● 針が曲がっている	針上下ボタンで針を上に上げます 正しくつけ直します 針を取りかえます	8 18 18
布地を送らない	● ぬい目の長さが布地に合っていない ● 送り歯にほこりがかたまっている	ぬい目の長さを調整します 掃除します	9 35
針が折れる	● 布地を無理に引っ張っている ● 模様に対して押えが合っていない（針が押えにあたっている） ● 針の取りつけ方がまちがっているか、しめ方がゆるい ● 布に対して針が細すぎる	手は布地にそえるだけにします 模様にあった押えを取りつけます 正しくつけ直します 布地と糸、針の関係を合わせます	14 20〜 18 17
回転が重く音が高い	● かまの内部や送り歯にごみがたまっている	針板をはずして掃除します	35
ミシンが動かない ●お知らせランプ …緑に点滅 …赤く点灯 …赤く点滅	● 電源プラグの差し込みが不十分である ● 電源スイッチが入っていない ● コントローラー（別売り）が取り付けてある ● 糸巻き軸が右へ押されている ● 押えが上がっている ● ボタンホールぬいで： ボタンホールレバーがきちんと下がっていない ボタンホール押えが取り付けられていない	しっかり差し込みます スイッチを入れます コントローラーで操作するか、コントローラーをはずします 左へもどします 押えを下げます きちんと下げます ボタンホール押えを取り付けます	8 8 33 10 14 24 24

この項に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店または「お客様相談係」（38ページ参照）におたずねください。

お問い合わせまたはご相談先（純正部品の購入方法）

シンガーミシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の弊社「お客様相談係」でも承っておりますのでご遠慮なくお申し越しください。

株式会社 シンガーハッピージャパン

〒110-0016　東京都台東区台東２丁目９番５号
TEL. 03-3837-1862　FAX. 03-3837-0072

＊ 住所および電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。
＊ シンガー純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、上記の弊社「お客様相談係」におたずねください。

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

1 このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、製造打ち切り後、通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

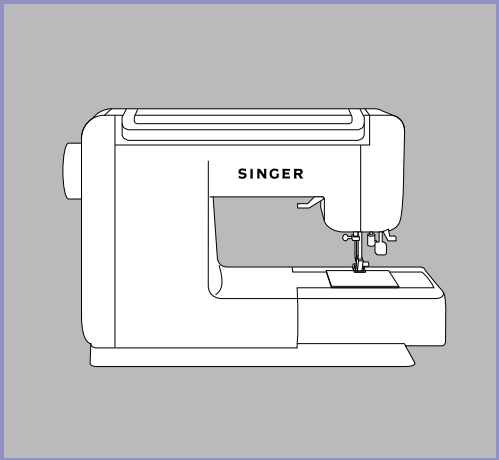
●無料修理保証期間後の修理サービス

1 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
イ　保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
ロ　浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
ハ　ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
ニ　ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
ホ　職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
4 このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

155年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭にお届けいたしております。

メモ

メモ



株式会社 シンガーハッピージャパン

〒110-0016　東京都台東区台東2丁目9番5号
電話　03-3837-1865